

こまえ平和フェスタ2021を終えて



<http://komae-heiwa-fes.clean.to/>

こまえ平和フェスタ 2021 実行委員会

2021年9月12日(日)、第16回目のこまえ平和フェスタ2021をオンラインで開催しました。アクセス数は450、常時100以上のアクセスがあり、コロナ感染拡大が急増している中で開催できたことにほっとしています。展示は中央公民館2階のショーケース(9月1日~15日)と西河原公民館ギャラリー(9月6日~13日)で実施し、ある程度の市民に観ていただいたことと思います。

昨年はエコルマホールが確保されていましたが、コロナ感染症拡大で、観客を集めて実施することは難しく、中止という苦渋の決断をせざるを得ませんでした。その代わりとして、初めての「平和フェスタニュース」を発行し、過去の歴史をまとめ、ユーチューブに2005年以来の平和フェスタ合唱団の活躍をアップし、ホームページには過去の主だった講演、戦争体験者のお話などを掲載しました。こうした努力は三小の先生の目に留まり6年生の平和学習に話し手として呼ばれることにつながりました。この1年間、コロナ感染爆発の波がある中で実行委員会開催も危ぶまれましたが、zoom会議も取り入れながら毎月開き、話し合いを積み上げ平和フェスタの企画を練り上げてきました。

オンライン開催は初めてでした。また、オンラインでなければ開催はできなかつたでしょう。オンライン開催は実行委員長の大熊啓(シンガーソングライター・うたごえ指導者)がこのコロナ禍で自身の音楽活動を守るため、これまでの市民とのつながりを保つために工夫と努力の積み重ねで得た力で実現されたものです。インターネットに詳しい方からも「プロ並みの出来栄」と絶賛される映像となりました。実行委員会としても「音楽家」大熊啓に感謝します。

映像は感染防止のために可能なものは録画撮りをしました。メイン講演の川崎哲さんは事務所からのZoomによる同時配信とさせていただきました。現場からの生配信については必要最小限の人数に絞り、出演者の事前検査や収録会場の常時換気、出演時以外のマスク着用などを実施しました。実行委員の多くは準備終了次第、会場を離れました。

無観客の中で費用は事前協賛金に頼るしかありませんでしたが、皆様のご協力で106人、12団体(お店含)から寄せられ、単年度で赤字を免れました。厚くお礼申し上げます。

今年のテーマは「ここから描きなおす未来」です。

核兵器禁止条約発効の年、「終わりの始まり」(サー口節子)として核兵器をどうなくしていくのか、コロナ禍のオリ・パラをどう受け止めるのか、戦後76年、戦争の愚かさ平和の大切さをどう継承していくのか、あらためて考えたいと思います。

リモートによる「水と緑のまち」大合唱 沖縄からも参加

103名の方が企画に賛同し、全国各地から動画が提供されました。沖縄からは2019年の出演者ユキヒロさんも参加。合唱とともに楽器演奏やダンスもあり、歌詞に合わせて狛江の自然・文化も紹介しました。多くの方から好評をいただきました。



司会 大熊志保さん 「オンラインでの 2021 こまえ平和フェスタ、リモート合唱『水と緑のまち』で開幕です。」と歯切れのよい司会者の声で始まる。

大熊実行委員長あいさつ

2005 年以来続けてきた平和フェスタが、コロナ禍で去年は開催できず、今年オンラインの開催。残念ではあるが、全国の人たちに観てもらえることになった。新型コロナ感染症で、当たり前だった日常がいとも簡単に無くなる。思えば今から 20 年前同時多発テロ。10 年前の東日本大震災。あれからアフガンでイラクで戦争が続き、いまでも中東は不安定。武力で平和は作れないことを示した 20 年だった。その中で今年 1 月に核兵器禁止条約が発効。これからどうしていくのか、いきたいのか考えるために川崎哲さんをお呼びした。この条約に日本はまだ署名・批准をしていないが、狛江市議会は早期批准の意見書を提出し、頼もしい。「平和とは何だろう、そしてこれからの未来を一緒に考えていきたい。」「子どもが大人になる頃はどんな未来になるのか」それは大人の責任、と結びました。



松原俊雄狛江市長あいさつ

感染症拡大でイベントが中止・延期の中、時代に即したオンラインを活用しての開催に深く敬意を表します。そして、悲惨な歴史を風化させることなく、次世代に語り継いでいくことは私たちの大切な責務であり、世界各地で紛争のある中で、今こそ平和について考え、平和の尊さ、平和への願いを語り継いでいこう、平和宣言都市として平和への思いを発信し、実現する街づくりを進めますと挨拶しました。



谷田部一之市議会議長あいさつ

昨年の中止から今年オンライン開催、心からお喜び申し上げます。現実の争いにより罪もない子どもたちが巻き込まれ、傷つき、亡くなっていくことは非常に悲しい。今年もこの平和フェスタが平和の尊さについて考える機会となることを願っている。「市議会として平和都市宣言の精神を尊重し、平和で安全なまちづくりのために最大限の努力をしていきます。」と結びました。



狛江平和都市宣言朗読劇

毎年、状況に合わせて脚本を変えています。今年 2019 年に続き、大政晶子さんと片山絵里さん、脚本・演出の二階堂まりさんの 3 人が出演し、生で配信されました。核兵器禁止条約の国連採択から発効までの経過、条約の内容を丁寧に説明した上で、唯一戦争被爆国である日本の政府は「条約案を作るための交渉会議にも参加しなかった」し、「国連総会にも欠席した。世界中ががっかり」と指摘しました。



核兵器禁止条約ができたが、核兵器保有国が参加していなくてどうやって核兵器の廃絶を達成するのか、川崎哲さんが話してくれること、これから上映するアニメ映画は日本で核兵器廃止運動のきっかけとなったアメリカの水爆実験を扱っていることなどを語り、日本政府にまずはオブザーバー参加して、「なるべく早く署名するように国民が頑張らなくては」と結びました。

岩瀬瑞穂さんのお話 「朝鮮半島、夜の逃避行」

現在の北朝鮮から終戦の翌年にイムジン河を渡って南朝鮮に逃れ、日本に帰ってくるお話。北朝鮮興南の日本窒素の社宅で 1941 年に生まれて、平穏に暮らしていたが終戦直前にお父さんが徴兵され、その後、捕虜でシベリアに送られたこと、終戦の翌年 3 月に妊娠 10 か月のお母さんと 5 歳の本人、3 歳の弟で見つけられないために夜中に逃げていたこと、途中で出産、自分でへその緒を切った（お母さんは看護師さん）。その間、連れ去られる、殺されるかもしれないという恐怖と飢えの逃避行。障害のある子やおばあさんが置き去りにされているなど多くのむごい現実をみてきたそうです。避難先の倉庫でロシア兵に高い！高い！をされて大泣きしたことを今も鮮明に覚えているそうです。



荒木恵美子さんのお話 「五輪と平和」

スポーツする人の姿に元気や感動をもらっているという学生でボクシングファンの荒木さんは今年の五輪開催に違和感をもち、五輪そのものの問題とコロナ禍で開催する問題に分けて分析しました。オリンピック固有の問題として、もともと女性差別があったこと、ロス五輪から商業化が進み、IOC が米 NBC から莫大な放映権料を受け取るという利害関係あることを初めて知ったこと、選手への対価は全収入の 4.1%に過ぎないという不当な待遇を指摘。



コロナ禍で外出自粛が呼掛けられ県跨ぎもままならない中で、オリンピックは万単位の国跨ぎを許すのはどう考えてもおかしい。もっとも手厚く保護すべき医療・福祉への支援の脆弱さが、「自宅療養」という名で放置され、亡くなる患者が相次いでいる。自宅療養のまま亡くなった方のニュースの途中で、パラリンピックメダル取得のニュース速報が流れた時は胸が傷んだと語りました。

私達は当事者です。社会を変えていくのは私たち一人ひとりの行動です。私達はどのような世界を望んでいるのか、これからも学びながら、多くの人と共有していきたいと結びました。

アニメ映画「トビウオのぼうやはびょうきです」

元気なトビウオのぼうやが友だちと勉強したり遊んだりして、すくすくと育っています。お父さんトビウオが仲間と遠出をしている間に、ついに空を飛べるようになりました。そんな時、突然水爆が爆発し、爆風で海の中も吹き飛ばされ、空から「白いゆき」が降ってきます。飛べるようになったぼうやはお父さんのお帰りを待ちわびながら、空を何度も飛び、「ゆき」を浴び、病気になってしまいます。病気になったぼうやはお父さんを迎えるに空を飛んでいる夢を見ます、というお話です。学校の教育用教材にもなっています。



川崎哲さんの講演「核兵器はなくせる？—私たちにできること」

川崎さんはピースボートの共同代表、2017 年にノーベル平和賞を受賞した「核兵器廃絶国際キャンペーン」 I C A N の日本代表です。

世界の核兵器の問題がどうなっていて、核兵器のない、戦争のない世界を作るために私たちに何ができるのかということを考える手掛かりになる話をしたい。「一番大事なことは、核兵器はなくせる、ということ。難しことはいろいろあるが、私たちが動けばなくすことができるし、動かなければ進まないということ。」

これまでの核不拡散条約（NPT）のもとで、核兵器の削減が進まなかった。1980年代の7万発から1990年代までは保有数は急激に減ったが、その後は1万3千発で留まったまま。しかも「対テロ戦争」となり、何時使用されるか非常に不安定になった。そのために、核兵器は2010年に非人道兵器として国際赤十字から提唱され、国連で議論され、禁止条約が成立した。



条約はNPT6条「(核軍縮)」を完全に履行するための法的枠組みとなるもので、NPTを補強する。また、核兵器を非正当化するので使用・拡散の抑制、軍縮への圧力となる。

過去の歴史を見ても条約ができることで、対人地雷禁止条約など、開発する企業への投資の引き揚げなどの運動が起こり、完全禁止されていく。禁煙法なども同様。

世界はオバマ大統領も、習近平国家主席も「核兵器のない世界」を表明している。国内の世論調査では核兵器禁止条約に参加は7割を占める。ところが国会議員では27%に過ぎない。このギャップを埋める必要がある。

再度、「核兵器はなくせる。いろいろなことがあるけれど、私たちが動けば必ず廃絶できる」と力強く訴えているのが印象的でした。

最後に展示の説明があり、そして再び、大合唱「水と緑のまち」でお別れしました。

《展 示》

【中央公民館2階ショーケース（9/1-15）】

平和フェスタ実行委員の3人が三小6年生平和学習に招かれてお話をしました。その時の児童感想文の展示をしました（ホームページで公開）。また、核兵器禁止条約の発効に関連した展示と原爆展、被爆者木村徳子さんの追悼（今年2月逝去）を兼ねて、2017年にお招きしたときの布川仁美さん（高校生平和大使）との対談の様子を展示しました。



【西河原公民館ギャラリー（9/6-13）】

恒例の一般公募による平和を願う絵手紙、川柳・俳句作品を展示。絵手紙は7人・19点、川柳は12人・24句、俳句は8人・19句でした。また、フリースクール KOPPIE さんに平和フェスタに参加された10年の貼り絵を全作品、展示していただきました。KOPPIE さんは狛江には拠点を残しますが、主な活動は山梨県に移すそうです。今年が最後の参加になりました。本当にありがとうございました。



また、「黒い雨」訴訟は7月29日、国の上告断念で確定し、原告の救済が確定しました。これに気象研究者として長い間、関わって来られた狛江市在住の増田善信さんが他団体の機関紙に『「黒い雨」訴訟と被爆者問題』として投稿されたものを、了解のもとに展示させていただきました（ホームページで公開）。

その他、沖縄の米軍基地（辺野古新基地問題）、東京の米軍基地（低空飛行）、空襲被害（被害者救済問題）などを展示しました。

是非、ホームページ (<http://komae-heiwa-fes.clean.to/>) を開き、動画や文章をご覧ください。